

「川崎和男先生に学ぶ」

1. 川崎先生について

7月30日、大阪商工会議所で「企業経営におけるデザイン戦略～デザインが企業を活性化する～」という講演を大阪大学大学院教授の川崎和男先生がされた。川崎先生は、昨年アメリカ大統領選挙で共和党の副大統領候補であったサラ・ペイリンさんのメガネをデザインしたという方で、『Newsweek 日本版』の「世界が尊敬する日本人 100人」に選ばれているそうです。



1949年、福井県の生まれで、私と同じ世代。大阪で1年浪人して金沢美術工芸大学に進まれて、その後、東芝に入社、オーディオ機器のデザインを担当、78年に交通事故で車イス生活になる。東芝を退職後、独立して90年に車椅子「CARNA」を発表し、ニューヨーク近代美術館の永久収蔵品となり、96年名古屋市立大学美術工学部教授、自身が心臓を患ったの機に人工心臓のデザインを手がける、06年より現職についている方です。そのユニーク性は、語るよりもホームページを参照される方がよく伝わると思います。参照：<http://www.kazuokawasaki.jp>



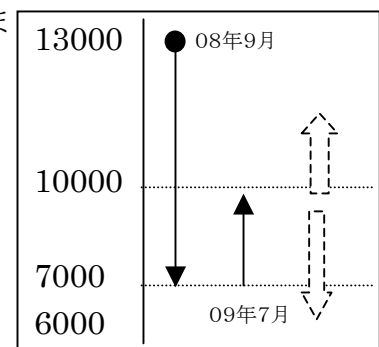
2. 講演の内容

「企業経営におけるデザイン戦略～デザインが企業を活性化する～」というタイトルだったので期待感が高かったのですが、いきなり、デザインの世界では関西では仕事がないという事から始まり、脱資本主義や「コンピュータが消える日」という事から始まりました。早口の方なので、聞き取れない部分も多かったのですが、iphone 関連の仕事もされているようです。

そして、現在の不況について、右図に示すような主旨の話をされました。昨年秋の株価は1万3千円だったが、リーマン・ショック後の下落で7千円を割るまでになり、その後、徐々に盛り返して、現在は、1万円台に戻っていますが、今後、どうなるかが大きな課題なのです。不況は Depression という事で「鬱病」状態にあるが、それには、

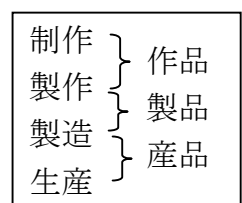
- 外因性・・・サブ・プライム・ローンによる米国バブルの崩壊
- 内因性・・・政界のリーダーシップの欠如
- 心因性・・・社会保障、医療制度問題

があるが、これらを克服するには、従来型の先進国であるアメリカを中心とした G8 の文化を追うのではなく、脱資本主義で日本の伝統主義へ回帰して、オリジナリティを持つ必要性を主張されました。誰もが失ったものをリカバリーで1万3千円に戻ると願っているが、場合によっては、6千円に下降する可能性もあると警鐘をならされたのです。



3. 漢字に学ぶ

日本は物づくりの国なのですが「つくる」という事でも、「作る」「造る」「創る」とあって、右掲のような関係性があり、「作」は短期的なものだが、「造」はしんにゅうが道を意味し、時間をかけて造り上げるものであり、「創」は、その両方の「創作」



もあれば「創造」もあるのです。この関係の中で、デザインは欲望の刺激装置の役割を果たし、企業の存在価値に大きく影響を与えるとの事です。

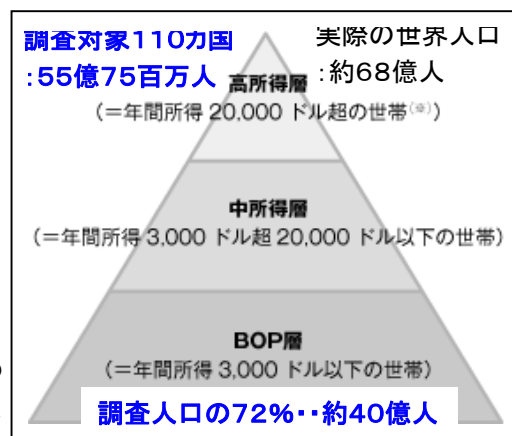
また、「商」は、中国の「殷」の時代の国名であり、「商」国は、何も生み出さない土地柄であり、他国の農産物を別の国の畜産物と交換する事で成り立っていたという事から、「商人」「商売」が生まれたという話もされました。また、「企画」と「計画」との相異という点では、「企」は、「止」という文字の上に、人が大きく足を開いて立っているという事で、「企画」は、将来に向けて何かを描くことであり、「計画」は、その描いたことを実現させるスケジュール的なものという違いがあると話されていました。さらに、営業の「営」は、構えるお客様との間に「線」を引くことであり、なにわの言葉「よろしおますな〜！」に含まれる大阪商人の美学を取り戻すことの重要性にも触れられました。

4. BOP 経営

最後に、BOP(Bottom of the Pyramid)経営について話されました。概要は、右図に表される世界の所得分布なのですが、調査した110カ国(55億75百万人)の72%のものが年収3千ドル(約30万円)以下であると言われています。川崎先生はこのBOP層へ目を向ける必要性を話されました。

クルマを例にすると、インドのタタ自動車が3m未満のクルマを約30万円で発売したのですが、同じ時期にトヨタはIQを発売して約150万円もの価格を設定したのです。確かに、9個のエア・バッグで安全を担保する必要があるのですが、この発想の違いを例にして、日本企業の行く末を案じておられました。トヨタもパブリカ・カローラというクルマを作ってモーターレーゼーションの波を作ったという歴史を持っているのです。この歴史を持っているのに、先端のG8へ目を向けた高級車へシフトしているのです。私見ですが、クルマという点では、日本メーカーは70万円のクルマづくりに戻ることが重要と思っています。この視点から、クルマの世界では、トヨタよりもスズキの方が将来性がある経営をしていると思っています。

川崎先生は、メガネで有名な方なのですが、福井のメガネ・メーカーにBOP経営を説き、40億の半分の方がメガネをかけるとすると約20億人のマーケットになると将来性を見込んだオリジナル・メガネの開発を呼びかけているそうです。その他の業界でも、このBOPという事を念頭に入れて、50年前にタイムスリップして、その必要性を再度分析して、商品戦略の転換も視野に入れて、高い品質ながら低価格、すなわち、トヨタのIQもエア・バッグや電子制御などを外して、タタの30万円のクルマよりも高品質で低価格のクルマづくりへ向かう事が重要なのだというのが感想です。これをヒントにしたいと思います。



【まとめ】

1. 川崎和男教授:『Newsweek 日本版』の「世界が尊敬する日本人 100 人」
2. 日本経済は、株価1万円に戻して来たが、舵取りを間違えると6千円にもなると警鐘
3. 今こそ「目線」を変えて、日本の伝統を回復することが重要である
4. BOP経営を学び、拡大するマーケットへ適応する必要がある

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryu.html> でご覧になれます！】